

# 教育研究業績書

2020年10月27日

所属：食物栄養学科

資格：講師

氏名：脇本 景子

研究分野	研究内容のキーワード
栄養教育 食教育	食育 学校保健 学校給食 行動変容 こども食堂
学位	最終学歴
博士（学校教育学），修士（学術・大阪市立大学大学院），学士（家政学・大阪市立大学）	兵庫教育大学大学院学校教育学研究科教科教育実践学専攻

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. パフォーマンス評価のフィードバック	2018年4月～現在	模擬授業などの演習，課題の発表，レポートの採点等には，ルーブリックを使用し，観点別に評価結果を明示している。学生にフィードバックし，学修の改善に役立てるとともに，成績に関わる評価（採点）の見える化を図る。
2. 学習効果を高める授業の工夫（講義・能動的学習）	2019年4月～現在	①要点に着目しやすい環境設定 授業の冒頭で，学習目標及びキーワードを提示する。また，授業要約となる復習ワークシートを配布する。 ②課題意図の共有化 観点別ルーブリックを提示し，学習者が到達目標を意識して活動し，自己評価しやすい環境を作る。 ③学習知識を活用した実践応用演習 模擬実践のグループワークを取り入れ，習得知識の有意義な使用と創造のトレーニングを行う。 ④授業時間外の学習の促進 授業の冒頭に前時の復習ミニテストを実施する。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 教員採用試験対策（キャリア支援）	2017年4月～現在	栄養教諭の教員採用試験対策として教材（問題集）を作成。受験準備のアドバイス，面接や模擬授業等の対策指導を行う。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 文部科学省 平成21年度食育推進交流シンポジウム シンポジスト	2009年6月24日	シンポジウム「学校・家庭・地域の連携による子どもたちに対する食育の推進について」にて栄養教諭の立場として学校・家庭・地域の連携による食育の推進にどのように関わるか提案した。
2. 農林水産省近畿農政局・独立行政法人農畜産業振興機構主催 実践的食育講座 シンポジスト	2007年12月16日	シンポジウム「心にひびく食育！その実践方法とは」にて学校給食に地場産物を活用することの意義と課題について述べた。
3. 食育校内研究 講師	2007年2009年	小学校における食育の実践方法や給食を教材として活用する方法について提案した。（川西市、篠山市）
4. 公益財団法人 こども教育支援財団 乳幼児ケアヘルパー実践講座 講師	2005年～現在	乳幼児対象の業務に従事している保育士や幼稚園教諭を対象に，食事や栄養に問題のある子どもへの対処法や保護者に対する指導法，さらに小学校での食育実践事例をふまえて，乳幼児期の食育や家庭との連携のとり方について講義する。
5. 栄養士、栄養教諭養成課程実習生指導	1993年～2016年	在籍小学校での受け入れ（栄養教諭・栄養士）
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 栄養教諭一種		
2. 管理栄養士		
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 兵庫県教育委員会 平成19年度 阪神南・阪神北地区学校における食育研修会 実践発表	2007年7月3日	生きる力と豊かな心を育てる食教育をめざして～宝塚市立西谷小学校の実践から～
2. 文部科学省 平成19年度 食育推進交流シンポジウム 実践発表	2007年11月8日	生きる力と豊かな心を育てる食教育をめざして～宝塚市立西谷小学校の実践から～
3. 宝塚市教育委員会 平成18年度 宝塚市教育総合センター研究発表大会 実践発表	2007年1月18日	食教育による子どもの育ちをどう読み取るか～評価を生かした家庭と連携する実践の展開～
<b>4 その他</b>		
1. 養父市大屋小学校食育研修会	2020年5月12日	食育研究指定校のアドバイザーとして食育実践例をもとに，食育の基本的考え方について講義を行った。
2. 川西市小中学校夏期教職員研修会	2019年8月7日	川西市小中学校夏期教職員研修会の講師として「学校に

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>4 その他</b>		
3. 加東市学校食育推進委員会	2019年1月28日	おける食育Ver2.0 ～食に関する指導を更新しよう～」をテーマに講義を行った。
4. 加東市学校食育推進委員会	2018年5月30日	「主体的・対話的で深い学びを食育から」をテーマに講話と総括助言を行った。
5. 加東市立東条中学校 校内研究会	2018年11月16日	市食育推進委員会アドバイザーとして「学校における食育の推進について」をテーマに講話を行った。
6. 兵庫県教育委員会 栄養教諭実務研修会	2018年11月1日	「食育とESD」をテーマに食育研究校の研究会で講義を行った。
7. 加東市学校食育推進委員会	2019年4月～現在	「魅力ある学校給食のための献立作成の工夫」をテーマとした講義およびグループ討議の指導助言を行った。
8. 子ども教育支援財団「大志の森」事業	2018年4月～2019年3月	市食育推進委員会アドバイザーとして定例会に出席し、講話、指導助言を行っている。
		親子自然体験活動「大志の森」プロジェクト（全4回）について、事業評価の立案を行い、教育効果を検証した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 栄養教諭による食に関する指導実践事例集	共	2009年3月	文部科学省	栄養教諭が教職員と協力し、家庭や地域と連携して取り組んだ学校における食育の実践的な事例をまとめたもの。全166ページ P59-70
<b>2 学位論文</b>				
1. 小学校高学年の給食時の健康関連行動に関する評価尺度の開発	単	2012年3月	兵庫教育大学連合大学院	児童の給食時間における健康行動として給食の完食とブラッシング行動をとりあげ、それぞれの行動について、行動変容段階、自己効力感、意思決定バランスに関する質問紙を作成した。 検討の結果、信頼性と妥当性が確認され、本尺度の使用可能性が示された。また、自己効力感、意思決定バランスと行動変容段階との関連を分析した結果、児童の行動変容を促すためには、これら心理的要因を高めるような教育介入が有効であると考えられた。
<b>3 学術論文</b>				
1. 小学校における学校給食の主食及び牛乳の残食に関わる要因（査読付）	共	2019年11月	日本健康教育学会誌 27(4), 319-329	脇本景子, 岡本希, 西岡伸紀 学校給食の残食に関わる要因と主食及び牛乳の残食量との関連を明らかにし、これら要因を変数とした残食推計モデルを得ることを目的とした。 学校給食の主食の残食は、気温、主食の味付け、喫食方法の工夫と関連していた。牛乳の残食は気温と関連していた。米飯、パン、牛乳の残食量について中程度の説明力を有する残食推計モデルが得られた。
2. 小学校高学年の給食関連行動に関する意思決定バランス尺度の開発（査読付）	共	2011年5月	日本健康教育学会誌19(2), 115-124	脇本景子, 西岡伸紀 児童の給食時間における健康行動として給食の完食とブラッシング行動をとりあげ、意思決定バランスに関する質問紙を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。本尺度は高い内的整合性を持っており、検証的因子分析における適合度指標はモデル採択基準の範囲内にあったことから、尺度の信頼性及び妥当性が確認できたと考えられた。
3. 給食の完食とブラッシング行動に関する自己効力感尺度の開発—給食時間における小学校高学年児童の健康行動評価—（査読付）	共	2010年2月	日本健康教育学会誌18(1), 3-13	脇本景子, 西岡伸紀 児童の給食時間における健康行動として給食の完食とブラッシング行動をとりあげ、自己効力感に関する質問紙を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。また行動変容段階との関係について検討した。 本尺度は高い内的整合性を持っており、検証的因子分析における適合度指標はモデル採択基準の範囲内にあったことから、尺度の信頼性及び妥当性が確認できたと考えられた。変容段階が後期に移行するにしがたい、自己効力感が高くなる傾向がみられ、理論に合致していることが確認された。
4. 家族とのコミュニケーションの内容や場が児童の生活充実感に及ぼす影響（査読付）	共	2007年12月	日本食生活学会誌18(3), 270-276	成瀬祐子, 脇本景子, 富田圭子, 大谷貴美子 小学生を対象にアンケート調査を行い、家族とのコミュニケーションが児童の心にどのように影響を及ぼすのか検討した。 パス解析により『孤独感』『家族尊敬』『生活充実感』は全て家族が自分を理解してくれていると思えることと関係し、さらにそれは、『会話のバラエティー』に影響されることが示された。またコミュニケーションの場面として食事中を選んだ児童の『会話のバラエティー』と『生活充実感』の得点有意に高かったことからコミュニケーションの場面としての食事時間が大切であることが示唆された。
<b>その他</b>				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. シンポジウムⅠ「食べることを「口」から考える-栄養と口腔保健との新たな協働を目指して-」シンポジスト		2012年7月7日	第21回日本健康教育学会学術大会	ライフステージごとに連携した食育と口腔保健の地域実践をテーマに、学童期の食育・歯科保健の実践と課題について述べた。
<b>2. 学会発表</b>				
1. 学校給食の残食量に関わる要因の検討	共	2018年7月7日	第27回 日本健康教育学会学術大会	脇本景子, 西岡伸紀 学校給食の主食と牛乳の残食に関わる要因をとりあげ、残食との関連を明らかにするとともに、これら要因を変数とした残食推計モデルを確立することを目的とした。 学校給食の主食の残食は、気温、主食の調理、試食形態と関連していた。牛乳の残食は気温と関連していた。これらの要因を考慮した献立作成により、学校給食の残食や、栄養摂取を調整できる可能性が示された。
2. 小学校高学年の給食時の健康関連行動における行動変容段階とライフスキルの関連性		2012年11月1日	第59回日本学校保健学会	脇本景子, 西岡伸紀 児童の給食時間における健康行動として給食の完食とブラッシング行動をとりあげ、ライフスキルと行動変容段階の関連を検討した。 特に維持期において高いライフスキル得点が確認され、獲得した健康行動の継続にはライフスキルが関わっており、健康教育にライフスキル教育を併用することの意義が示唆された。
3. 給食の完食とブラッシング行動に関する意思決定バランス尺度の開発—給食時間における小学校高学年児童の健康行動評価—		2010年6月19日	第19回日本健康教育学会学術大会	脇本景子, 西岡伸紀 児童の給食時間における健康行動として給食の完食とブラッシング行動をとりあげ、意思決定バランスに関する質問紙を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。 本尺度は高い内的整合性を持っており、検証的因子分析における適合度指標はモデル採択基準の範囲内であったことから、尺度の信頼性及び妥当性が確認できたと考えられた。
4. 給食時間の健康行動に関する行動変容段階と意思決定バランスとの関係		2008年11月	第55回日本学校保健学会	脇本景子, 佐藤榮里子, 西岡伸紀, 鬼頭英明, 勝野眞吾 小学校高学年の児童を対象として給食時間の健康行動の変容段階と意思決定バランスの関係について検討した。 変容段階が後期に移行するにしがたい、恩恵の知覚が増加し、負担の知覚が低下する傾向が確認された。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 学校給食58(9)	共	2007年7月	全国学校給食協会	ハイキング給食 P35-38
2. 兵庫教育2007年6月号	共	2007年6月	兵庫県立教育研修所	「命」を実感させる食育カリキュラムの開発 道徳における食育の実践と評価 P24-27
3. 学校給食58(3)	共	2007年3月	全国学校給食協会	教材としての「特別献立給食」 P30-34
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 学術研究助成基金助成金（基盤研究C）	共	2020年4月～	令和2年度 科学研究費助成事業	「持続可能なコミュニティづくりを支える食育プログラムの国際比較研究」研究分担者（研究代表者：大倉健太郎）
<b>学会及び社会における活動等</b>				
年月日	事項			
1. 2018年4月～現在	加東市学校食育推進委員会アドバイザー			